



豊洲 新市場

移転中止の検討を

都区政報告のつどい そねはじめ都議が提案

22日、赤羽会館小ホールで「都区政報告のつどい」(日本共産党志茂・赤羽後援会主催)が開かれ、44人が参加しました。私の区議会第3回定例会報告に続き、そねはじめ都議がスライドを使って、保育園待機児、東京五輪、豊洲新市場、都議会改革などの都政問題について報告をおこないました。(のの山けん)



報告する、そねはじめ都議(右)と、のの山けん区議(左)

豊洲新市場への移転問題では、党都議団が、小池知事の移転延期表明を受けてただちに新市場への立ち入り調査をおこない、都民に隠されていた巨大な地下空間を発見したことや、こ

共産党都議団 新事実明らかに

用が多額となる3つの競技施設の移設を提案しているとのべしました。

そね都議は、待機児問題では党都議団の提案が実現し、総額126億円の補正予算が実現したことを報告。東京五輪の経費削減について

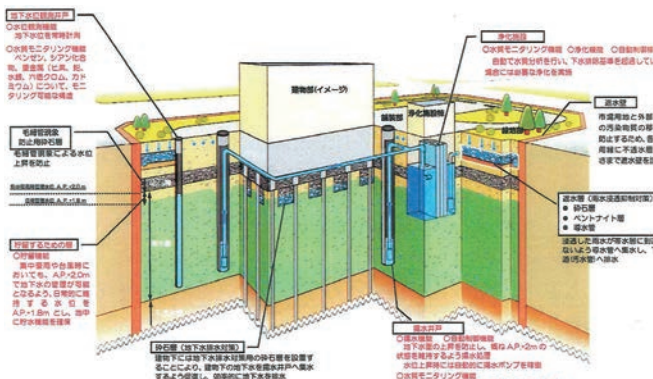
地下水管理システムは、土壌汚染対策としておこなった盛り土まで汚染地下水が上がり、管理するとともに、

豊洲新市場の土壌汚染対策の柱となっている地下水管理システムについて言及し、このシステムが「機能しない恐れがある」と指摘しました。

の場所にたまっていた汚染水が地下水であることと新事実を明らかにしてきたことを紹介。さらには、管理棟などの建設をめぐって官製談合の疑いが浮上していることについても詳しくふれました。

地下水管理システム機能せず?

ベンゼン、シアン化合物などの有害物質の濃度を測定、処理して市場の安全・安心を確保するものとされていますが、これが機能しないとすれば、新市場の土壌汚染対策は根本から見直さなければならなりません。そね都議は「ここまできた以上、小池知事は、豊洲新市場への移転中止を真剣に検討すべきだ」と強調しました。



豊洲新市場に設置された地下管理システムの説明書

先進自治体に学ぶ

区民生活委員会管外視察

19日と20日の2日間、区民生活委員会の管外視察で福井県小浜市と大阪府寝屋川市を訪ねました。それぞれの自治体で学んだ施策内容をレポートします。(のの山けん)



小浜市役所の玄関口

8年前のオバマ米大統領就任時に大きな注目が集まった小浜市は、2008年に当選した新市長のリーダーシップのもと、観光政策に力を入れてきました。人口1人あたりでは最多となる130ものお寺を有し、夏場は海水浴や釣りの名所としても知られている小浜市ですが、

民間の力を活用した おばま観光局を設立

福井県小浜市

定着型の観光客の集客をめざして「道の駅 若狭おばま」、「まちの駅・旭座」、「海の駅」を相次ぎ整備、市内の観光地を無料で回る「若狭おばま周遊レトロバス」を運行させてきました。

株式会社の観光局をたちあげ

こうした事業にとりくむにあたり、市の商工観光課、若狭おばま観光協会に加え、新たに株式会社である「おばま観光局」を設立、民間のファンドも活用して事業を推進しているとのことでしたが、三者の調整には苦労しているとのことでした。

地域協働を支援し

コミュニティを活性化

大阪府寝屋川市

豪栄道関のふるさとでもあり、地元の優勝パレードには2万2000人がつめかけたという寝屋川市では、地域協働事業について話をうかがいました。

市内で活動する民間団体への支援では、市民会館のワンフロアに「市民活動センター」を整備し、現在では約180団体がレンタルスペースや会議室、印刷室などを利用しているとのことでした。

24の小学校区に 地域協働協議会

さらに、自治会加入率が9割というコミュニティの強みを活かして、



豪栄道のふるさとでもある寝屋川市

市内の全24小学校区に地域協働協議会を設立。ここには自治会やPTA、自主防災協議会、NPOなどさまざまな組織の代表とともに、市の担当職員が参加しています。

苦労をとめないながらも、「地域の課題は地域で解決しよう」という姿勢でとりくみを進めていることが印象的でした。